

事業活動実績報告書

施設名	やくし幼稚園		
教育理念	自ら考え行動する子どもたちの育成		

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現		
1 事業名	ののさまに親しみ、表現してみる		
2 実施期間	令和 6年 4月 3日 ～ 令和 7年 3月 25日		

3 取組概要

(取組日) 令和6年 4月 3日 ～ 令和 6年 4月 30日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

花まつりに参加する
4月8日は灌仏会(釈迦の誕生日)で花まつりとして親しまれている。紙芝居等で花まつりに親しみを持つ。
敷地内に花御堂をたて、ののさまの誕生のお祝いをする。
甘茶の存在を知る。
4/8は寺院でも大きなお祭りが開かれ、園児も親子で行事に参加する。



(取組日) 令和 6年 5月 1日 ～ 令和7年 3月 14日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

お花当番
クラスの代表の園児が、ののさまにお花を供える。ののさまにいろいろなことを頑張ることを約束し、ののさまからは、安全に過ごしていけるように見守ってもらうお願いをする。
花を1輪ずつ備えるが、当番の園児の花がまとまることで、力を合わせることの大切さ、一人の力の大きさも伝えていく。



(取組日) 令和 6年 4月 4日 ～ 令和7年 3月 14日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

献香献花
幼稚園の行事において、クラスの代表がののさまにお花をお供えし、お香をくべる。
代表の園児は、練習をして行事当日に臨む。



(取組日) 令和 6年 4月 4日 ～ 令和7年 3月 14日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

しょうぐうさんに親しむ
玄関等に幼稚園を見守るしょうぐうさんがいる。ののさまの一員として、子どもたちに親しみ深い姿かたちをしており、毎日子どもたちが親しんでいる。



(取組日) 令和6年 7月 1日 ～ 令和 6年 7月 31日

(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

みたままつりに参加する。
ののさまや先祖への感謝の気持ちをもって、みたままつり盆踊りに参加する。この日、ののさまは櫓の下に安置された大位牌に引っ越しをしてみんなを見守っている。行事の当日は、保護者も参加する。



3 取組概要	(取組日) 令和6年 5月1日 ~ 令和7年 3月 14日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 境内の散策 季節ごとに、境内を散策する。境内には伽藍が配置されており、お堂へは感謝の気持ちを持って挨拶をする。四季折々の植物や昆虫、カエルや、メダカなどを観察する。 
	(取組日) 令和6年 11月1 日 ~ 令和6年11月30日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 七五三のお参り 伝統行事である七五三のお参りを行う。子どもたちが作成した、ちとせあめの袋をののさまからいただく。 
	(取組日) 令和6年 12月1 日 ~ 令和6年12月25日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 成道会のお話会 12月8日の成道会にちなみ、僧侶にお話をしてもらおう。成道会のお話を紙芝居を用いてわかりやすくお話をいただく。 
	(取組日) 令和 7年 1月 9日 ~ 令和7年 1月 31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 初詣 寺院の本堂に出かけ、初詣を行う。一年の安全を願いお参りする。僧侶の法話を聞く。ののさまの家(厨子)や、仏像、仏具などの文化財の見学も行う。 
	(取組日) 令和 7年 2月 1日 ~ 令和7年 3月 14日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ののさまの絵を描く これまで見守ってくれていたののさまに感謝の気持ちをもって「わたしのののさま」を描く。 
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

効果検証報告書

施設名	やくし幼稚園
教育理念	自ら考え行動する子どもたちの育成

事業の区分(5領域)		健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
計画時	1 事業名	ののさまに親しみ、表現してみる
	2 事業概要	やくし幼稚園ではののさま(仏さま)は子どもたちにとって身近な存在であるが、幼稚園内のののさまに親しみを持つだけでなく、寺院のののさまにも触れていき、自分のお気に入りのののさまを見つけてみたり、ののさまの絵を描いたり、粘土で表現することで、自分の好きなものなどを絵画や造形で表現するきっかけになる。
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 クラス担任教諭、寺院住職、寺院職員 寺院、幼稚園での園児向けの法話(ののさまの説明、ののさまの姿について、ののさまの違い) ののさまの絵の描画をしたり、粘土で表現してみる。
	事業後 3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 事業を振り返って、ののさまが見守っているという実感と、園児たちの安心感が感じられた。 日常的なものと、年中行事のような適時的なものがうまく折り合わさり、常にののさまの存在を感じられるような事業だった。 寺院に赴く回数も予想以上に取り入れることができた。その際境内の散歩や季節折々の事象に触れることができた。 ののさまの絵に関しては、クレヨンを用いた表現だけでなく他の表現も取りいれて行きたい。
計画時	4 事業のねらい	仏教保育を主体とする本園では、ののさま(仏さま)の存在はとても大きく、ののさまが見守ってくれていることで、園児、教員、保護者も安心して生活を送ることができていると考えている。 ののさまを観察してみることで、表情の違い、体勢の違いなどに気づき、細部まで観察してみようという意欲につながる。 寺院に出かけていくことで、様々な歴史のあるののさまを見たり聞いたりして、いろいろな表現情報があることを知り、ののさまを絵や粘土で表現することで、いろいろなものを自分の手で表現してみようとする意欲につながり、表現力を育んでいく。
	事業後 4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ののさまの存在について、事業を通して教員も園児も再確認できたように感じる。園で安全に生活でき、行事の準備や練習に前向きに励むことができた。ののさまの観察については、十分時間を割くことができなかったが、観察については年長児でないとなかなか難しいと感じる。年中児以下は、ののさまの存在ということに注目していくようにしたい。
計画時	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 日々、幼稚園内のののさまに親しむ。(ののさまにご挨拶、歌をうたう) それぞれのののさまの姿かたちを観察し、それぞれの違いや、同じことに気づく。 寺院まで足を伸ばし、寺院のののさまにも触れる機会を設ける。ここでも、相違点や類似点に気づいていく。 自分のののさまを表現してみる。(絵画、粘土表現など)
	事業後 5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ののさまの存在について、事業を通して教員も園児も再確認できた。園で安全に生活でき、ののさまに見守られている実感を感じながら、行事の準備や練習に前向きに励むことができた。 ののさまの観察については、十分時間を割くことができなかったが、観察については年長児でないとなかなか難しいと感じる。年中児以下は、ののさまの存在ということに注目していくようにしたい。

計画時	6 環境構成	○「ののさま探検」として、園内のののさまに会いに行く。ののさまの場所は①園庭②保育室③廊下④ホールなので、その場所の確保が必要。 ○ののさまのお話を聞くため、担当の教諭を配置する。 ○寺院にお参りに行き、寺院のののさまにも会いに行く。日程の確保が必要。 ○寺院にもお話を聞くため、担当の職員等を配置する。 ○ののさまの描画の際には、クラスごとに絵画セットなど描画に必要なものを準備する。 粘土表現の際は、十分なスペースと粘土を準備する。 ○機会があったら作品を保護者に見ていただく機会を設けたい。
	事業後 6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 「ののさま探検」は年度初めに取り組んだ。その後もののさまに出会うたびに親しみを込めて挨拶する姿、話しかけたり接触を試みる姿が見られた。僧侶にののさまのお話をお願いしたので、園児たちも真剣に聞くことができていた。お堂へ向かう際も、「ののさまのおうちにお邪魔する」という意識をもち礼儀正しくふるまうことができた。ののさまの絵の活動では、思い思いのののさまを描く園児の姿があり、絵画を苦手とする園児も進んで描いている姿があった。粘土表現では教員の声掛けにより、自由表現の中でののさま製作に取り組んでいた。課題としてではない取組がとてもよかった。
	7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ○毎日親しんでいるののさまに感謝の気持ちを持ち、心穏やかに園生活を送ることができる。 ○ののさまの複数の存在を知り、ののさまの表情、形の違いや類似点を見つけることで、集中力や観察力がはぐくまれる。 ○自分の手で絵画や粘土で表現することで、さらに細部まで知りたいという意欲が芽生え、さらなる観察力、注意力が育まれる。
	事業後 7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 園児はののさまへ毎日挨拶をして一日を始めている。教員も同じく行う中で園児たちが安心して園生活を送っている実感がある。お堂へ向かう際も、「ののさまのおうちにお邪魔する」という意識をもち礼儀正しくふるまうことができた。ののさまの絵の活動では、思い思いのののさまを描く園児の姿があり、絵画を苦手とする園児も進んで描いている姿があった。ののさまの観察については、興味関心の段階を大切に、園児からの自発的な観察や、試みを大切にしていきたい。
8 効果検証 総括		事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて やくし幼稚園ではののさま(仏さま)は子どもたちにとって身近な存在である。園児は毎日、ののさまに見守られながら生活をしているという実感はある。実際にののさまは話したり動いたりすることはないが、日々触れ合いを持つことで園児たちの心に、優しく、助けてくれたり、時にはがんばれとエールを送ってくれる存在になっている。幼稚園内のののさまに親しみを持つだけでなく、寺院のののさまにも触れていくことで、公共の場や、訪問先での振る舞いに礼儀正しさが身についていく。ののさまの観察については、年中までは興味関心を広げていき、年長になってから、細かく観察していけるようにしていきたい。